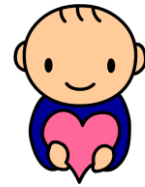


「気持ちを表す言葉カード」のレシピ



〈 ねらい、目的 〉

小学校2年生～6年生の国語の教科書（上）巻末には、「言葉のたから箱」の頁があり、その学年で使えるようになることが望ましい「人物、ものや事柄、気持ちを表す言葉」が収められています。これは、豊かな語彙や言語の知識・技能を、全ての学力を支える基盤として重視し、実生活の場で生きて働く言葉の運用力を身につけられるようにするためにあります。そこで、「気持ちを表す言葉」に学年ごとに取り上げ、その意味や例文を学び、遊びながら言葉を意識し、実生活でそのことばを使って書いたり、話したりできるようにする教材を考えました。

〈 材料 〉

- ・ 2年～6年 学年ごとの「気持ちを表す言葉」一覧プリント 5枚
- ・ 上記の中から各学年の「気持ちを表す言葉」の意味と使い方を書いたプリント2～3種類、およびその白紙プリント 各2枚
- ・ 気持ちを表す言葉ビンゴ用紙 2枚
- ・ トレーディングカードのクリアポケット ・ カードリング2個 ・ のり
- ・ はさみ ・ 定規 ・ カッター ・ カッターマット ・ サインペン（黒）

〈 作り方 〉

- ① 自分が作りたい対象学年を決める。対象児にふりがなが必要であれば、プリントにふりがなをつける。
- ② 対象学年の「気持ちを表す言葉」の意味と使い方プリントを確認し、切って2枚を貼り合わせ、クリアポケットに入れる。
- ③ 対象学年の「気持ちを表す言葉」一覧プリントから言葉を4つ選び、白紙プリントに書きこみ、意味と使い方を調べて書く。

* 持って帰ってコピーしてから、②の作業を繰り返す。

<p>さんねん だいなものや、きかいをうしなつて、くやしと思ふようす。 また、心のこりなようす。なごりおしいようす。</p>	<p>おもしろい ふつとちがってわらいだしたくなるようす。楽しくて、ついむちゅうになつてしまうようす。</p>	<p>こまる どうしたらよいかわからず、まよう。</p>	<p>あんしん しんばいごとのないこと。 しんばいしないこと。</p>
<p>わずかの差でまけて、さんねんだ。 ゆっくりあそべなくて、さんねんだ。</p>	<p>きょうの先生の話は、とてもおもしろかった。</p>	<p>出かけようとしたら、友だちがあそびに来て、ことわれなくて、こまった。</p>	<p>お母さんが、雨の中、おかに来てくれたので、あんしんした。</p>

〈 使い方 〉

「気持ちを表す言葉」について、その時の表情や身振り等をしてみながら意味や使い方を学びます。また、ヒントゲームやビンゴゲームで遊びながら、「気持ちを表す言葉」を使う機会を増やし、実生活で使うことができるようにします。

(1) 授業で1日1語指導する

国語、特別活動等、時間のある時に1語選んで、その言葉の時の表情、場面、使い方を教えます。子どもに演技してもらおうと盛り上がり、「その気持ち、分かる」と実感しやすいです。

(2) 学級全員にカードを配り、すきま時間や課題が早く終わったら、見るように促す

トレーディングカードのクリアポケット(4ポケット)に1つの言葉の意味と例文が裏表になるよう入れて、リングで綴じ、机の横にかけられるようにします。朝自習や、給食準備の間、授業中課題が早く終わって、待っている時等に見るよう声かけをします。

(3) 班ごと、または支援級等では学級全体で、ヒントゲームをする。

班に1組、気持ちを表す言葉のカードをパウチして大きく見やすくしたものを準備します。リーダー役が1枚引いて、そのカードを隠します。リーダーは、選んだ言葉の横に書かれた意味を声に出して読み上げ、その表情や様子をして見せ、みんなに「なーんだ?」、と聞きます。言葉の意味に合う言葉を当て、例文の使い方が分かるようにしていきます。

(4) 班ごと、または支援級等では学級全体で、ビンゴゲームをする。

学年ごとの気持ちを表す言葉の一覧表を見ながら、その中から9つを選んでビンゴプリントに各自で書くよう促します。書き終わったら、全員一人ずつ、書いた言葉を言っていきます。自分がプリントに書いたものと同じ言葉を読み上げられたら、プリントの言葉に○を付ける。早く2ビンゴになった人が勝ち、と伝えておきます。

